

第6回青森県生涯学習審議会会議録

日時	平成26年6月27日(金) 14:00～16:00
場所	青森県警察本部 6階 教育委員会室
出席者	<p>《委員》敬称略 12名 (欠席3名)</p> <p>浮木 隆 太田 博之 小笠原 彩子 工藤 秀美 斉藤 雅美 境 香織 佐藤 江里子 澁谷 尚子 野呂 徳治 原 英輔 田頭 順子 山上 恵子 (中上 千壽子) (三上 雅通) (横内 清信)</p> <p>《青森県教育長》 中村 充</p> <p>《事務局》 5名</p> <p>中野 聖子 (生涯学習課長) 渡部 靖之 (学校地域連携推進監) 森田 勝博 (企画振興グループマネージャー) 他2名</p> <p>《その他》 2名</p> <p>葛西 浩一 (学校教育課 学校教育企画監) 小森 直樹 (総合学校教育センター 教育活動支援課副課長)</p>
内容	<p>1 開 会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>3 案 件 (1) 第11期青森県生涯学習審議会報告(案)について (2) 県民向けリーフレット(案)について (3) 意見交換 (4) その他</p> <p>4 閉 会</p>
配 付 資 料	<p>次第 青森県生涯学習審議会委員名簿 座席図 資料1 第11期青森県生涯学習審議会報告(案) 資料2 県民向けリーフレット(案)</p> <hr/> <p>〈情報提供資料〉</p> <p>平成26年度青森県の社会教育行政(生涯学習課)</p> <p>あおもり子ども職場参観日「生きることや働くこと」について考えよう:職場参観日事例集(生涯学習課)</p> <p>ご存知ですか?わたしたちのまちの社会教育委員さん!(文部科学省)</p> <p>第10回日本の次世代リーダー養成塾青森県推薦枠受講生派遣報告書(企画政策部地域活力振興課)</p> <p>青い樹特別号(青少年育成青森県民会議)</p> <p>あおもり子ども・若者支援機関マップ(青森県子ども・若者支援ネットワーク協議会)</p> <p>平成26年度要覧(青森県総合社会教育センター)</p> <p>研究紀要第25号(青森県総合社会教育センター)</p>

(◇事務局 ◆委員)

(1) 第11期青森県生涯学習審議会報告(案)について

※資料1に基づき、委員から発言

- ◆ (2ページ、2 特徴のあるフレーズに関して) 特徴のあるフレーズという見出しを付けているが、どういう考え方、意図でこの見出しを使うことになったのか。やや違和感がある。
- ◇ 骨子を作成する段階で、委員の皆様にご意見を求めた際、特に印象に残るフレーズやキャッチコピーのような言葉を出していただいた経緯があり、これをまとめた項目を立てることとした。これまでにないような特徴のあるフレーズを出していただいたので、項目のタイトルとして使用することとした。
- ◆ 経緯は理解できた。しかし、報告書としてまとめる段階になった時にはどうか。
- ◇ 見出しは変更する。リーフレット向けにこの言葉を使いたいと考えていたが、本文にはそぐわないため、これからの生涯学習の考え方のベースとなるような、印象に残ったフレーズという意味を示す言葉にする。
- ◆ 特徴あるフレーズという言葉は、リーフレット向けにわかりやすくしようとの意図で付けたが、報告書内では変更するということでよろしいか。
- ◇ 変更する。
- ◇ 一般の方が読むことを想定し、わかりづらい言葉等は脚注で解説する必要があるか。
- ◆ そのような手法も考えられる。
第3章は県民の方に学びの種を拾ってもらうため、このような考え方を持っていただく、あるいはこういった促しをすればよいのではないかというような内容とし、一人でも多くの方が生涯学習活動に参加して町全体や個人の心が豊かになっていけばよいのではないか。
次の案件で出す予定であった資料2をここで先に見ていただきたい。報告書を教育長に手渡したあとで、県民向けにリーフレットを出そうとしているが、そのベースとなる意味合いもあって報告書があると考えている。この両方を見ながら意見を出していただきたい。
- ◆ 生涯学習に参加しましょうという呼びかけであるが、PTA活動も地域活動も生涯学習の一環なのだという書き方をしている。対して、実際に活動している方々は生涯学習をしているという意識を持っているのだろうか。生涯学習をとおして何かをしようという考え方もあるが、その反対に、こんな生き方をしませんか、そのためには生涯学習がよいツールとしてありますよというように、順番を逆にした方が県民に呼びかける場合にはよいのではないか。まず生涯学習に参加して成果を得ようとする、なぜ自分が参加しなければならないのかという疑問で止まってしまうのではないか。

アプローチの仕方として考えた方がいいのではないか。

- ◆ 自分の周りに活動する環境がたくさんあり、参加することが生涯学習のスタートだという考え方ではなく、あくまでも普段の日常の活動が、最終的に生涯学習につながっていくし、それこそが生涯学習なのだという考え方ですね。
- ◆ 生涯学習をすることがゴールではなく、豊かな生き方をすることがゴールであり、その途中に生涯学習があって、実践すればもっと豊かになりますという見せ方がよいのではないか。
- ◆ 報告の4ページから6ページの中に、今のお話のような意識付けという内容はあるか。
- ◆ 例えば、4ページの(1)3行目にある、「考えて行動してみることが学びにつながります。」という部分は、学ばなくてはならない、学ぶことがよいことだ、あるいは学ぶことが必要だと考える人にとっては、「こういうことが学びにつながるのだ。」と考えることができると思う。ところが、そうでない人には、していきましょうと誘う呼びかけが先なのではないのかと思う。原案を大きく変えるものではなく、最初のアプローチするところが、もっと一般の方にとっつきやすい、読みやすい形にならないか。
- ◆ 4ページ1の(1)で、「普段から何気なく行っている活動はありませんか」という文で始まるのは違和感がある。ただし、この違和感は、インパクトがあるという意味ではいいのかもと思ったが、どうしたらいいか迷っていた。
今話を聞くと、問いかけをする始まり方でもいいのではとも思う。我々は会議に出席し議論をしているからこそ理解して読めるが、報告としてまとめる際に、このような書き方でいいのか迷うところである。
- ◆ このフレーズが出てきたのは、30代から40代の働き盛りや子育て世代の忙しい方々が、いわゆるスクール形式の生涯学習講座には参加できないという現状があるものの、日々過ごす中でやっていることは、実は生涯学習活動になっているものもあるのですよということを表したい意図がこのような文章になったのではないか。このフレーズ自体は今期の会議の中では大事な話で、講師の前で勉強することだけが学びではないのだという部分は是非載せたい内容である。導入としてではなく、文を少し入れ替えるなどして流れを変えればよいと思う。
- ◆ 文章にすると、初めにこのフレーズがくるのは唐突で違和感があるのだと思うが、CMとか、あるいは告知をするような、リーフレットに載せる時にはよいと思う。違和感がある方が印象には残るし、もっと読み進めようと思うのではないか。
報告書としては、これを置く場所を動かしてもいいと思う。
- ◆ 第3章のタイトルは「学びと社会参加活動のつながり」としているが、これは逆にしてもいいのではないか。「社会参加活動が学びへとつながる」とすれば、何かの気づきがあり、講座に参加し、自分のスキルが上がって、最終的には地域や社会に貢献できることにつながる。活動の中で仲間ができ、その輪が広がるという、よいサイクル

ルになるのだと思う。我々が審議のテーマとしてきた、「学びの種を拾う」ためにはどうしたらいいのかという部分につながっていく。普段から活動していることが学びの気づきになっていくという流れの方がいいのではないかな。

- ◆ どっちが先かというよりも、つながりがあるのだということ述べる方が大事。
- ◆ 先ほど話になった、第2章の「特徴のあるフレーズ」という言葉と同じように、リーフレットに載せたい言葉が報告書に出てきてしまったということなのではないか。
今までは報告や提言を出して終わりであったが、今回は初の試みとして、県民に向けてもっとわかりやすく、一人でも多く生涯学習に参加してほしいという目的でリーフレットを作ろうとしていることから、報告に載せる文章とリーフレットに載せる文言が入り混じってしまっている。
- ◆ 報告を読む対象が誰なのかが作り方にも関係する。リーフレットは明らかに一般県民向けであることから、呼びかける導入の言葉として、使ってよいと思う。
- ◆ 確認ですが、報告も基本的には県民向けということによろしいですね。ただし、なかなかこの報告は県民の方は読まないと思うので、簡単に手に取ってもらえるリーフレットを出そうとしている。
- ◆ 報告を読む対象が行政の方や、何かの委員になっている方であるとすれば、最初にこの言葉から始まるのは違和感がある。リーフレットにはこの言葉が入ればよいと思う。
- ◆ 学びの種を拾うというのは、報告にしてもリーフレットにしても、キャッチコピーやフレーズがたくさん出てきていることはすごくいいことである。これらを章や節のタイトルとして使っているところがあるが、学びの種を拾うという言葉は、表紙と、あと数カ所しか出てこない。学びの種とは何かを説明する部分がない。どこかで学びの種を拾うというのはこういうことなのだと確認した方がよい。実は先ほどから問題になっている、学ぶことや学習することは難しいことで、縮こまって考えるような形として捉えがちであるが、実は普段から何気なく行っている活動が、そのまま学びにつながるものなのですよということ、それに気づくということが学びの種を拾うということなのだと確認して文章を整理すれば、このフレーズは生きるのだと思う。
- ◆ 活動はありませんかと書くと疑問になってしまうので、「普段から何気なく行っている活動、たとえば地域での清掃活動やお祭りなど、それらは生涯学習の一端と言え、それらは決して難しいことではなく、学びの種なのです。」というようにつなげていけばじっくりくるのではないかな。
- ◇ 皆様のご意見を伺いながら、まとめ方に関してはもう少し工夫する。例えば、第2章の冒頭に、四角で囲んで説明を書いているが、次に続くものが一体何をしてほしいのかが分かりづらいのではないかな。
- ◆ 学びの種という文言が、どこかで説明されなければならないと言っている。このあ

とでてくる場合のことも考えて必要なのではないかということ。

- ◆ 触れる場所を、4ページの(1)にするか、(2)まで進んでからにするかということ。普段から行っている地域活動が、もうすでに一步を踏み出している、そして、次の学びに進んだ段階で、最初の一步の種を拾ったことになるのだという、我々はこれを「学びの種」と言うのだという説明をした方がいいのではないかという話である。

◇ 失礼しました。考えていたのは、第2章にしても第3章にしても、始まりの部分が少し見えづらいのではないかと思っていたもので。第3章でいうと、これは県民向けの提案ですよということを書いてはいるが、例えば行政としてはこの第2章に基づいて、こういったことを県民に対して訴えていった方がいい、あるいは、事例としてこういったことを紹介しますというような形にすると、報告としては良くなるのではないか。そのような説明が第2章にもなく、これからの生涯学習の考え方としてすぐ本編に入ってしまったので、2章も3章もわかりづらくなっているのではないか。もしそのような説明を書き加えてよいのであれば、事務局で直したい。

◇ 全体的に説明不足というか、文言が足りないという部分が見えてきているので、最終案として提示しましたが、再度事務局で練り直したいと思う。

基本的な部分になりますが、第3章と第4章の部分の文章というのは、基本的に皆様に調査していただいた団体からの聞き取り調査、そしてそれを基にした審議会のご発言を元に組み立てている。例えば4ページ(1)の5行目に「PTA活動も」と出てくる。頭に「例えば」という文言が足りないこともそうであるが、PTA活動がなぜここに出てくるかということ、高P連相川会長への聞き取りから得られた言葉であるが、出所について本文の中で示した方がよいか。例としては側注を設け、「この部分はこの調査を元にしてしています」というのが分かるような書き方ができると思う。また、そのようなものは書かず、文章の表現でどこからきているのが分かる形で書く方法も考えられるが、いかがか。

- ◆ この報告の内容は、実質は委員が調査したことから、種を拾うための方策を、県民に訴えるために審議してきたことを書いている。実践者の声が入っているのだという部分は見える方がいい。

- ◆ 側注となると、数が多いので大変だろう。煩雑になるようであれば、一番上に「調査で得られたことをつないで記載している」ということを書いておくだけでもいいのではないか。

◇ 確かに煩雑になる。

- ◆ 読む方も大変だと思う。

- ◆ 要するに、「調査に基づいて」と見せればいいのでは。

◇ 調査と本文がつながっていないように見える。調査は調査であるのだが、ではこれは一体何のために実施したのかが見えないのではないか。

- ◆ では、ひとつひとつではなく、うまくつなげて書くということにしましょう。事務局に訂正してもらいます。
次に、第4章へ移ります。第4章は行政向けということになりますが、第3章の県民向けのことを踏まえて、行政へはどういった形で訴えていけばいいのか見ていただきたい。
- ◆ 審議の中で話し合われたことがよくまとめられていると思う。
- ◆ 地域活動や社会参加活動の全体が生涯学習であり、次の段階としてセミナーや講座といった本当の勉強があるのだという捉え方をすればいいのだと思う。この章では本当の学習をする場、学ぶ場へ、どうやって県民の皆さんを誘うかについて書いている。生涯学習全体から見れば狭い範囲であるが、生涯学習を勧めるとは、セミナーや講座の受講者を増やすだけではないという思いがある。
- ◇ 確かに第4章は、学びという学習の部分に特化しすぎている。せつかく第3章で地域の部分が出ているのに、第4章には出てきていない。
学習機会の充実はいままでもやってきていること。今回はそれと活動とをつなげるという部分がポイントになる部分であり、そのことを第4章に入れ込まなければならぬ。
- ◆ 第4章全体を見ると、学びにどう引き寄せるかということ以外にも、人財育成についても書かれているので、よくまとまっていると思う。
- ◆ 人財の「財」は財産の財という字を使っている。青森県では人を財産として捉えている。これを前面に出して、人財は必要で大事なことであり、一人一人が重要な存在なのだということを発信してもいいのではないか。
8ページの(3)個別の広報の工夫の部分为例に挙げると、表現を柔らかくして多くの人に見てもらおう工夫をしていると思えるが、文章が長いとそれだけで読むのをやめてしまう人もいると思う。例えば「タイトル・デザイン」という見出しを付けて、本文は端的で拾いやすく、わかりやすい文章の作成のしかたをすると、その項目を見たいという人が、目次から拾いやすいのではないか。
各ページの下部分を1/4ほど空けて、解説などを書き込めるように作ってある本とかがあるのだが、そのような作りを取り入れても面白いのではないか。
- ◆ 7ページ(1)の3つ目に、「幼少期から…、教職員の研修の」とあるが、幼少期からということであれば、教職員という表現ではなく、職員とした方がいいのではないか。
また、5ページの(2)男性に向けての部分で、「腰が重いとの意見も見られます。」は、「聞かれます。」の方がいい。
- ◇ 確認ですが、保育園の先生を対象とした場合、「教職員」という言葉が合わないということか。
- ◆ そのとおりです。幼少期と入れるのであれば教職員ではない表現がいいし、義務教育の中からということになれば、教職員という言葉は生きると思う。

- ◇ いい言葉があれば教えていただき表現を変えたいと思う。事務局とすれば、教員だけではない、職員も含めたという意味で使用したのだが、一般の県民が見た時に違和感があるのであれば変えなければならない。
- ◆ 要は、家庭からも、幼稚園も保育園も、ということを含めて指していますよね。
- ◆ そういう子どもを扱っている人を指していますよね。職員という表現であれば、いろいろな方が携わっているので、もっと視野が広がって、教職員だけではないという風に見てもらえるのではないか。
- ◇ 学校では教師だけの場合は「教員」を表現し、職員も含める場合には「教職員」と使う。したがって、幅広い意味で教職員という言葉を使った。しかしながら、一般の方が読んだ時に違和感があるのであれば違う言葉を使わなければならない。
- ◆ 3つ目の下から2行目に「教師自身が」という言葉が出てくる。唐突に学校の先生の話になっている。行政の担当者に向けた話であるのに、学校の先生に向けた話を入れるのであれば、「特に学校の教員については、」というような言葉を入れなければならない。
- ◆ 幼少期も大事だとは思いますが、義務教育に入ってからの方が、より拾いやすい子どもがいるのではないかと思うので、幼少期を抜いて義務教育からと統一し、限定した方が生きるのではないかと思う。対象者が義務教育に入った子どもたち、小中の子どもたちの方が、蒔いた種を拾うことがあるのではないか。
- ◇ 工夫して整理したいと思う。
- ◆ 幼少期というのは、学校を意識しているということではないのか。
- ◆ 就学前の子どもも意識したものである。従って保育園のことを考えた時には、教職員という表現が合わない。であるのなら、学校に入ってからの子どもたちに特化した形で生涯学習を意識させるとした方がいいのではという話である。
- ◆ 3つ目の文章の前半は「幼少期」、後半は教師自身という言葉を使っていることから学校を意識しているとなるので、どちらかに統一しなければならない。
- ◆ この部分については、ただいまの議論を参考にして、対象の絞り方から含めて事務局に考えてもらう。
次は巻末の資料についてですが、皆さんに調査していただき、提出いただいた調査報告を掲載しているので、このまま行こうと思いますが、いかがでしょうか。
- ◇ 変換ミスがあります。18ページエその他の2行目「団体が少な行きがする。」は、「少ない気がする。」だと思ふ。訂正します。

(2) リーフレット(案)について

- ◆ リーフレットについて、皆さんからご意見をいただくのですが、報告書の第2章と第3章を、これからの生涯学習の捉え方、考え方はこうで、皆さんで社会参加につながるような学びの種を拾いましょう、というものを、県民向けに少しでもわかりやすくしてリーフレットにしたいと思う。

まずは何を載せるか、その内容について、文字が多すぎるというのは皆さんわかると思うので、これは外すとか、ここはタイトルだけでいいのではないかとか、そういう整理をして作成したものを、あとで電子データか何かで見てもらって調整をしていきたいと思う。7月末ぐらいまでに作りたいと考えている。

提案しますが、仕事で取引のあるデザイナーがおり、お手伝いしてもらえるとことなので、デザインの原案はその方に作ってもらい、委員の皆さんには、そこに載せる内容を選んでいただきたいと思う。見開きページで作りたいと考えているので、そのようなイメージで考えていただきたい。

まずタイトルについてはいかがですか。動き出してみませんか、とありますが、まずは仮にこれを置いておきます。ご意見があれば出してください。

次に事務局の原案では、左のページに第2章から取ったもの、右のページに第3章から取ったものが書かれていますが、これらをミックスして、図なども入れて、見開きで見せるようにしてはどうか。

まずは文字数が多すぎるので、思い切ってカットしていきたいと思う。
- ◆ やはり情報量が多すぎると思う。私たちは生涯学習について話し合ってきたので理解しているが、このリーフレットでは、「生涯学習ってこんなこと」というのがひとつあればいいのではないか。最初に「これからの」では、これまでそれほど関わりがない人にとっては、全く入らないのではないか。

いろいろとチラシ等を見る中で、最初に言葉として拾って行って、これはこういうことだなと思う時に大切なのは、文言からではなく、キャッチコピーからくるのがいいと思った。デザイナーが入って、どうレイアウトするのかによって大きく変わってくると思うので、その際にはキャッチコピーが頭にあるとインパクトが出ると思う。

言葉のすべてが「…である。」であるとか、「…する。」となっているので、体言止めにした方がいいのではないか。「生涯学習の効果は、心が豊かになること」というようにしたらよい。
- ◆ 「生涯学習」と、文字で見ると硬いイメージがある。「生涯学習ってなに」という、わからない人たちがたくさんいて、先ほど最初に出てきた、「普段何気なく行っている活動はありませんか」という言葉は、リーフレットの入りの言葉として使う手はあると思う。「普段やっていることが」と始まれば、「そうなのか」という反応になるのではないか。
- ◆ いい言葉が並んでいる。最初の「これからの生涯学習の考え方」というのは違和感があるが、一方で中身を読むと、「子どもたちにはどんなことを目指させたいか」と書いてあり、これがその上のことをすべて物語っている。生涯学習をとおして生き方を、「啓発する」という言葉は堅いが、子どもにどう生きさせたいか、何を指摘させたいかということを端的に表しているので、こういうフレーズとかキャッチコピーを配置して、もし説明が必要ならばするにしても、考えてみようという問いかけをする

ような書き方がいいのではないか。

- ◆ これからの青森県における生涯学習のコンセプト、このようなものも必要ないと思う。
リーフレットでは「こうなんだ」と断言するのではなく、「そうかもしれない」と思わせるようになればいいと思う。
- ◆ 「生涯学習」という単語は1回も出てこなくてもいいのではないか。審議の中でも、学習というのが講座ばかりではないということが話されてきたことを考えても、一般の人に生涯学習という言葉で勧めたとたんに、何だか難しいものになってしまうのだとすれば、それは外してしまうのがいいのかもしれない。
- ◆ 報告では「男性に向けて」と特筆している部分もあるが、リーフレットは男女や年齢を絞ることなく作成したい。しかしながら男性向けに書いてある部分も重みがあるのかとも思う。そちらも向いて男性を誘うことも載せると、地域の雰囲気やムードも変わるのかとも思う。
- ◆ 子どもたちにどんなことを目指させるかという部分は、子どもに限らず、何を目標してどう生きるかをつなぐのが生涯学習だという観点もあるので、ぜひ一番先にほしい。
- ◆ その下に、やりたいこと・なりたい自分は生涯学習の先にあるというのが来ればいいですね。
- ◆ 「生涯学習の先にある」というコピーはどうか。「生涯学習のゴールは一つではない」という言い方もいいのかどうか。狭い印象を与えてしまわないだろうか。
- ◆ 生涯学習課が作成しているので、課の宣伝ももう少し入ってもいいのではないかと思う。学びの種を拾うためにというところで、プロや専門家に出会いませんかとあるが、学びたいと思った方が、調べたいけど調べ方が分からないとか、どこに問い合わせればいいのか分からないと思うので、ここに聞けば誰かを紹介してもらえとか、踏み出す一歩は大事な部分だと思うので、県の生涯学習課にはそのような役割もあるのだということを出してもいいのではないか。実践者の事例は載っているが、そこまで会いに行けない人もたくさんいると思う。
- ◆ お問い合わせは生涯学習課まで、だけでもいいのかもしれないが、課の役割について少し紹介を載せてもいいと思う。
県民へ向けての提案を厚くした方がいいのか、それとも、生涯学習とはこういうことだという部分を多くした方がいいのか。
- ◇ 確認したい。大きな字で書いてある部分を中心にするのではなく、小さな字の解説の部分から問いかけるような言葉を拾っていくということによろしいか。例とすると、「生涯学習を通して、求められる生き方、在り方を啓発する。」ではなく、「子どもたちにはどんなことを目指させますか。」という部分を残す。あるいは次でいうと、「生涯学習の効果は、心が豊かになることである。」ではなく、「町の清掃やPTA

活動を楽しんだと思ったことはありませんか。」という部分を残すということでもよろしいか。そこから、実は…というような導き方をすることでもよいか。そういうことであれば、県民の皆さんに向けた言葉に近くなってくると思う。

- ◆ 本当の生涯学習のあり方は、どんなことを目指すのかということ、こういったことが必要であるという書き方にし、何気なくやっていることの説明が足りなければ右側から解説として少し持ってくればよいのではないか。それらに適したイラストなり写真なりが入っていればよいと思う。案のような分け方は、我々が物事を考える時にやりやすいように分けたものであって、読む人にとってはこのようには整理できないと思う。いずれにしても分量は多いので、クロスして必要な部分だけを残さなければならない。
- ◆ ボリュームとしては県民向けの提案を多くした方がいいのか。
- ◆ 価値も変化しているし、そういうことを学ぶ必要はあるということ、あるいはこんな考える機会があるというようなことを書けばいいのではないか。その機会は思っているよりもたくさんあるのだということを書けばいい。
- ◆ 生涯学習とはこんなことだというのは、たとえ柔らかい表現であったとしても、ひとつは入れておいた方がいい。今は生涯学習の言葉の意味が分かったうえで書いてあるが、私自身もこの審議会に関わるまでは、生涯学習というのは何かわからず、生涯という単語は重いと思っていたので、一般の方はその思いは当然あると思う。生涯学習とは何ぞやというのをひとつやわらかい言葉でいいので入れておく必要はあると思う。生涯学習自体を少しでも理解しないと、次に進んで読んでほしくないのではないか。
- ◆ 表紙のサブタイトルが「お誘い」になっているが、これを「生涯学習とは」のようなタイトルにして、こんなことをしていませんかということを書き、「あ、そうか。生涯学習ってそういうことなのか。じゃやってみよう。」と思ってもらえるような作り方はあってもいいのではないかと思った。
- ◆ 生涯学習とは？の一言では表現しきれない。そこが一番難しいところである。一言で表せないから、考え方が4つも出てきているのだと思う。
- ◆ ですから、先ほど議論したように、我々の定義とは言わないまでも、これを目指すことが生涯学習であるということを書けばいいのではないか。
- ◆ そういう表現があればいいとは思うのだが、それをやさしい言葉で、端的に言えないもどかしさがあるので、困っている。
- ◆ 一般の人に呼びかけるために作るものなので、一般の人がずっと入れるようなものにならなければならない。「子どもたちには何を目標させますか」とか「豊かな人生を送りませんか」という呼びかけの文章をいくつか書いて、つながりができてよかったよと言っている人もいたり、社会参加活動をしている人がいたり、受講がきっかけでつながりができた人もいる。それがすべて生涯学習なのだというまとめにしてわか

りやすくしないと、一般の人の頭には入っていかないのではないかと。

- ◆ 最後の部分で「だから生涯学習は大事なのです」という収め方にするということですね。いずれにしても、生涯学習とはどんなことなのかということは、リーフレットを読み終えた時に「なるほど」とわかるような落とし込みは必要である。呼びかけから入って、やってみませんかというような「お誘い」とすればいいのではないかと。

それでは、皆さんからいただいた意見をまとめて、事務局と文言の整理から協議して、どう継ぐか、コンセプトの部分と提案の部分、2章3章を見開きで見せるように組み直して、それからデザインを考えることにしたいと思う。案ができれば皆さんにも出して見ていただきたいので、その段階で意見をいただきたいと思う。7月中旬には一度出したいと思う。事務局と正副会長に時間をいただいて案を作りたいということで皆様にはご理解をいただきたい。

(3) 意見交換

- ◆ 意見交換ということですが、冒頭申し上げたように、これまで2年間、6回にわたる審議のまとめとしての意見をいただきたい。
- ◆ 生涯学習という名前が、一般から見るととっつきにくいのだが、3年くらい前に、生涯学習に関連するイベントをやっていて、生涯学習に参加しませんかというチラシをもらったことがある。たくさん講座の案内とかが書いてあったが、自分が参加することは無理だと思った。県の方針として民力が必要で、突出した力を集めるのだということに成功させるにはどうしたらいいかということ、力を入れてやるのは素晴らしいことなのでやっていただき、一方で審議会では、少しでも裾野を広くしていこうということに進んでいることから、たくさんの方が入りやすい形の方がいいのではと思っている。
- ◆ 生涯学習とはいかに自分が学びたいのか、知りたいのかという動機づけが大事なのだと改めて感じた。ではそう感じた時に、どこに相談すればいいのかということになるのだが、そこまで周知していることが浸透していけば、生涯学習ということが生きて捉えていただけるのではないかと。今までやってきたことが生涯学習であったのだということに気づくことも大事なことはないかと思う。
- ◆ 審議会は行政向けの提言を出す場であると考え、今回の報告の第4章にあるように、行政の支援はこうあればよいというような考えを持っていたが、反対に県民に向けた提案はいかに難しいかということ、議論を重ねる中で感じた。こうあればよい、こうしたらいいのではという思いはあるが、それをいかに県民に周知するかを考えないと、青森県の民力というか、県民力は向上していかないのではないかと思う。このためリーフレットをつくることにしたが、わかりやすくなるように事務局でもう一度案を練ってほしい。
- ◆ ここ数日、聞き取り調査の結果を改めて読み返し、素晴らしい実践をされている方がたくさんいらっしゃるのだということを感じている。事務局においては、報告やリーフレットはもちろんのこと、聞き取り調査の結果もぜひ活用して、データベースの

一部として、また、今後の生涯学習を引っ張って行ってくださるような方々を、活用していただきたい。

- ◆ これからの時代は、県民一人一人が自分たちの住む町のことを、生涯学習を通じてどう考えていくのか、生涯学習が前進すれば、必ずや我が町や青森県には明るい未来が待っていると思う。